

工学部同樹会報

第 25 号

発行日 令和7年3月31日
発行者 〒036-8561 弘前市文京町3
工学部同樹会(工学部内)
題字 同樹会長 千葉 信行
印刷所 やまと印刷株式会社

理系人間として…

鳴海博史

(平成6年理学部物理学科卒業
平成8年理学研究科物理学専攻修了)



この度は、同樹会報第25号を発行されますことを、心よりお慶び申し上げます。

さて、私は平成2年に理学部物理学科に入学し、大学院理学研究科修了までの6年間在籍させていただきました。在籍時は電磁気学研究室の佐々木一雄先生からご指導を受け、また、匂坂康男先生（パイプがお似合いの）や二間瀬敏史先生（クルマと天体が好きな）からもご教授いただきながら、勉学に励みました。そのとき研究していたのは半導体の薄膜形成についてでした。蒸着装置は大変古いものでしたが、試料分析に使用したX線回折装置は、当時の最新のものを使用させていただき、日夜研究に没頭させていただきました。学びの多かった学生時代ですが、特に二間瀬先生から「一つの分野を極めると、周辺分野の知識も引張り上げられるものだ」や、匂坂先生から「最先端の研究者たちは、やみくもに『なぜ』と問う前に、直感的な判断（ヒューリスティック）を大事にしているぞ」など、示唆に富んだお言葉をいただき、それが私の人生の金言として今でも心に刻まれております。

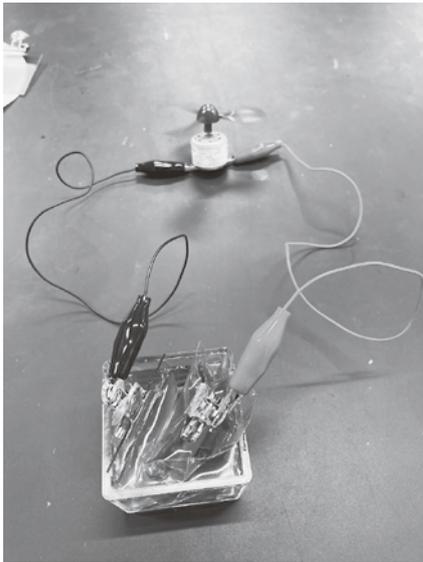
さて、大学院修了後は、日立東部セミコンダクタ株式会社に入社し、日立製作所に出向しながら、2年ほどフラッシュメモリの開発に携わっていましたが、「地元青森で人生を送りたい」という思いから、会社を退職して現職の中学校の理科教員となりました。

最初は北海道の瀬棚町（現せたな町）で初任4年、その後むつ市立田名部中学校6年、平川市立碓ヶ関中

学校6年、青森県教育委員会5年、大鰐町立大鰐中学校3年の勤務を経て、現在は黒石市立黒石中学校で教鞭をとっています。

さまざまところでたくさんの人と出会い、人とのネットワークができましたが、中でもMr.マサックでおなじみの工藤貴正先生と出会ったのは大きな転機となりました。工藤先生とは平成29年から「科学の祭典全国大会」に一緒に出展し、子どもたちが科学の不思議を体験するためのステージショーを現在も行っております。あるとき、工藤先生からの強烈な後押しにより、東レ理科教育賞に応募することになり、仕事の合間を見ながら教材研究を進めました。詳しくは省略しますが「ダニエル電池の実験を中学生により分かりやすくするために、導電性ガラスを電極にすることで、正極負極それぞれの変化を短時間で確認できる」という内容で令和5年度に応募したところ、なんと東レ理科教育賞本賞を受賞することができました。その研究内容の中にはITOガラスへ亜鉛を薄膜形成させるという部分があるのですが、これは学生時代の薄膜形成研究のおかげで着想に至ったものです（写真参考）。こんなところで大学、大学院での学びが活かされるとは…。

私は、計算するのが大好き、読書や作文が嫌いで苦手な根っからの理系人間です。小さなころからパズルやクイズ、プログラミング（小学生のときセガのSC-3000というゲームパソコンを買ってもらい、マイコン



BASIC マガジンというパソコン雑誌に掲載されていたプログラムを参考にして簡単なゲームを作っていた)を好んでやっていました。一方で読書は大学に

入ってからやっとするようになりました。その私が最終的には教育職というどちらかと言えば文系の職業についてしまうとは…、不思議な人生だなあと感じています。

最近では理系文系に限らず「読解力」が要求される年代で、私のような理系人間はずいぶん肩身が狭くなったように感じますが、それでも、理系人間の強み（論理的思考や批判的思考、洞察力など）を生かしながら社会に貢献していかなければならないと感じています。ただ、これまでの私のキャリアを振り返ると、一番は人との出会い（ネット上ではない）が人生を有意義なものにしてくれたと実感しています。この場を借りて、出会ったすべての人たちに感謝いたします。

最後に私が教育公務員として仕事をするのもあと数年となりましたが、今後も微力ながら理系人間の端くれとして精進していきたいと思います。

定年退職教員

令和6年度末をもって、地球環境防災学科 葛西真寿教授、地球環境防災学科 片岡俊一教授、電子情報工学科 丹波澄雄准教授がご退職されます。ご退職の先生におかれましては、永年にわたる教育研究

活動、及び同樹会に対するご尽力に対し厚く御礼を申し上げますとともに、今後益々のご活躍と同樹会への変わりぬご支援を宜しくお願い申し上げます。なお、先生方から本学部における様々な思い出や出来事に纏わるお言葉を頂戴しました。



この24年間を振り返って

理工学研究科（地球環境防災学科）

片岡 俊一

大学院修士課程を修了し、民間企業に17年間勤め、2001年4月から弘前大学のお世話になった。それから24年が経ち、月日が経つのは早いものだと改めて思っている。

地盤構造が地震動におよぼす影響を評価することが研究テーマであることから、平常時は県内外の地震観測点を巡り、地盤特性を判定する計測を行うことが多かった。この計測は学生さんと行くことがあり、泊まりになることもあった。国立大学が独立行政法人化

（独法化）する前は出張旅費が別立てであったため、計測に行くことが容易ではなかったが、独法化後はレンタカーを利用できるようになり出張が楽になった。県内外で計測したことから、青森県内は勿論、東北の地理にも詳しくなった。

被害地震が起きると、現地調査にも行った。この際には、同学科の上原子晶久先生に同行を願い、調査中は大変お世話になった。同行いただいた地震を数え上げると、この24年間で9地震になる。地震の現地調査

たとえば、北東北三大学の研究連携推進の一環として、秋田大学の松富英夫先生、岩手大学の小笠原敏紀先生と一緒に2010年にチリで主として津波被害を調査したのも良い思い出である。

少し研究の紹介をしたい。上述した地盤と地震動との関係については、退職講演で紹介するので、災害研究の話を書いておく。卒業研究のテーマを広げる必要があることから、地震災害が中心であるが、災害そのものを勉強するようになった。その始めは、2002年に齋藤真矢君と1983年日本海中部地震の際の浪岡病院の対応を調べたことである。ここで得た知見は、最近の県立中央病院と青森市立病院の統合の会議に出席した際に大変役に立った。また、「一般の人はマグニチュードと震度の違いが分からない」という都市伝説

のような話を確認するために、青森県下の高校生にその違いを尋ねてみたこともあった。これは川田麻由さんが修士論文にまとめてくれた。弘前市が防災マイスター養成講座を始めたことから、防災リーダー教育についても調べてみた。更に、最近では震災遺構を防災教育に組み込んだ研究を加登綺夏さんと一緒に行った。また、関連死を含まない地震時の死者数を知りたくなり、木元さくらさんに整理してもらったことも良い思い出である。この研究で得た知見は青森県の地震被害想定調査委員会などで役に立った。

最後になるが、在職中は多くの方々に変なお世話になった。この場を借りて御礼申し上げるとともに、弘前大学のますますの発展を願っている。



研究室の学生達との研究活動を振り返って

理工学研究科（電子情報工学科）

丹波 澄雄

弘前大学に赴任してきたのは平成10年4月で、現在の情報基盤センターの前身である総合情報処理センターの専任教員でした。平成15年10月に電子情報工学科に異動して、学生達との研究活動が始まりました。

私の研究分野はリモートセンシングです。主に衛星画像などの高所からの観測画像を解析しますが、地上の地図情報も必要になるのでGIS（Geographic Information System、地理情報システム）も活用します。さらにリモートセンシングに同期した地上の解析対象の実測データ（気象や環境情報）も必要です。地上データ収集のために研究室総出でフィールドを歩き回ることもあります。衛星やドローンによる撮影画像から玄米タンパク量を推定する研究では、水田の中に入りマーカーを設置し、その場所のサンプル稲を刈り、脱穀、精米、粉碎、サンプル抽出、分析、解析という一連の作業を行います。また、不法投棄地域の推定の研究では、地理的要因との関係を研究するため、GNSS（Global Navigation Satellite System、全地球航法衛星システム）機器を持って山中の細い山道を何度も走り回りゴミ探しをしました。

IoT（Internet of Things）技術を用いた常時自動観測システムをシングルボードコンピュータ Raspberry Pi を使って開発するようになってからは、地域の問題の解決の一助としての利用を試行しました。何度か実施した実証実験（弘前さくらまつり駐車場情報公開社会実証実験、弘前ねぶたまつり位置情報発信社会実証実験）では、研究室メンバー全員がそれぞれの役割を持って地域の様々な人々と交流し学問以外の色々な経験も積みました。また、産業への応用として、通信キャリア圏外に位置している鱈ヶ沢町の鮎養殖施設において、自然（風力発電、太陽光発電）エネルギーだけで環境計測を行い、さらに養殖施設の機器をリモート管理するシステムを研究室で開発し動作実験を行いました。屋外実験なので、計測機器や発電機器を設置するための檣を鉄パイプだけで組み立てるなど、机に向かっているだけでは得られない経験を積むことで、教育的な効果も高かったと思います。このような地域に役立つと思われる研究開発を、様々な人々のご協力に支えられながら、研究室の学生達とこれまで続けてこられたことに深く感謝しています。

理工学部と理工学研究科の就職状況

令和6・7年度 理工学部就職対策委員会委員長

梅田 浩司

理工学部／大学院理工学研究科博士前期課程の就職率は、令和5年度（令和6年3月卒業／修了）96.7％／99.1％、令和4年度が97.2％／100％、令和3年度が97.8％／100％、令和2年度が99.5％／97.8％と、依然と高い就職率を維持しております。また、理工学部の大学院進学率は、令和5年度が43.9％、令和4年度が43.4％、令和3年度が42.5％、令和2年度が41.1％と増加傾向が続いています。

2024年卒の新卒採用は新型コロナウイルス感染症の5類移行が決定するなど、全体的に明るい話題の中でスタートしました。企業側の採用意欲はより高まり、売り手市場の様相を呈していたと思います。学生のニーズに答えたい企業は職種別コースの設置や配属先を事前に告知するなどの工夫を行い、「福利厚生」への関心の高さに応えるために、採用広報でPRする企業が多く見られました。また、若者人口が今後、減少傾向であることをうけ、他社に後れをとらないよう3月から面接を開始するなど、採用選考の早期化が如実に現れはじめています。特に理工系の企業については、半導体を中心にあらゆる分野で人手不足が問題となっており、求人数も増加傾向にあることから、学生は慌てることなく、余裕をもって就職活動に取り組んでほしいと考えております。

ここで弘前大学が行っているキャリア教育について紹介したいと思います。キャリア教育は教養教育科目の一環として、1年次に履修する「キャリア形成の基礎（1単位）」と3年次に履修する「キャリア形成の実践（2単位）」を通して、学生一人ひとりが目標を持ち、自己理解を高め、多様な職業について学ぶことで、自己の役割や将来ビジョンを考える訓練を行います。また、キャリアセンターでは国家資格であるキャリアコンサルタントを有するキャリアアドバイザーが

3名常駐し、求人情報の配信の他、進路相談、就職先企業の提案、エントリーシートの書き方の指導、個人・集団・Web面接の対応方法など、きめ細かい指導が行われております。また、就職に関する講演会として、例えばインターンシップ研修会、官公庁業界説明会、公務員講座、論文試験対策講座、業界研究会、一般知識講座、志願動機作成講座などが行われています。

一方、理工学部就職対策委員会では、企業との面談、求人情報の周知、保護者懇談会での就職状況の報告のほか、「企業人による講演会」や「OB・OG講演会」などを開催し、仕事の優先順位の付け方、効率的な時間の使い方を習得する方法、周囲と協力しながらスムーズに仕事を進めるコミュニケーション力の必要性、物事を論理的に捉える視点を養うことの重要性についてのお話をいただき、学生たちも興味深く拝聴していました。

最後に令和5年度の理工学部卒業生の進路集計を表1に、大学院博士前期課程修了生の進路集計を表2に示します。今後も、大学・学部として学生の就職活動をしっかりとサポートしていく所存です。引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

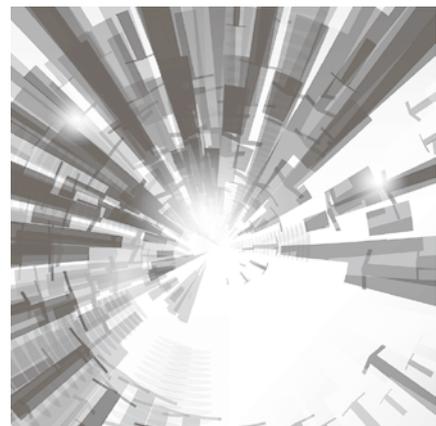


表1 令和5年度(令和6年3月)理工学部卒業生の進路集計

進学	数物科学科		物質創成化学科		地球環境防災学科		電子情報工学科		機械科学科		自然エネルギー学科		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
進学	26	34.2%	23	46.0%	27	37.5%	24	41.4%	44	61.1%	14	45.1%	158	44.0%
農業・林業	1	1.3%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%
建設業	1	1.3%	0	0.0%	7	9.7%	1	1.7%	4	5.6%	1	3.2%	14	3.9%
製造業	4	5.3%	10	20.0%	3	4.2%	10	17.2%	11	15.2%	6	19.4%	44	12.3%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.0%	3	6.0%	2	2.8%	0	0.0%	1	1.4%	2	6.5%	8	2.2%
情報通信業	12	15.8%	3	6.0%	4	5.6%	11	19.0%	2	2.8%	0	0.0%	32	8.9%
運輸業・郵便業	0	0.0%	0	0.0%	3	4.2%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	4	1.1%
卸・小売業	1	1.3%	2	4.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	4	1.1%
金融・保険業	3	3.9%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.7%	0	0.0%	1	3.2%	5	1.4%
不動産業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
飲食店・宿泊業	0	0.0%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	1	1.4%	0	0.0%	2	0.6%
医療・福祉	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
公務員	6	7.9%	3	6.0%	5	6.9%	4	6.9%	5	6.9%	4	12.9%	27	7.5%
教員	4	5.3%	1	2.0%	1	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.2%	7	1.9%
その他の産業	6	7.9%	3	6.0%	14	19.5%	3	5.2%	1	1.4%	2	6.5%	29	8.1%
未就職・その他	12	15.8%	2	4.0%	4	5.6%	4	6.9%	1	1.4%	0	0.0%	23	6.4%
計	76	100.0%	50	100.0%	72	100.0%	58	100.0%	72	100.0%	31	100.0%	359	100.0%

表2 令和5年度(令和6年3月)大学院博士前期課程修了生の進路集計

進学	理工学専攻												合計	
	数物科学コース		物質創成化学コース		地球環境防災学コース		電子情報工学コース		機械科学コース		自然エネルギー学コース			
進学	0	0.0%	3	15.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%	4	3.4%
建設業	0	0.0%	0	0.0%	2	18.1%	0	0.0%	1	2.4%	1	12.5%	4	3.4%
製造業	4	26.7%	14	73.7%	0	0.0%	8	38.1%	36	85.7%	3	37.5%	65	56.0%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.0%	0	0.0%	1	9.1%	1	4.8%	2	4.8%	2	25.0%	6	5.2%
情報通信業	5	33.3%	0	0.0%	4	36.4%	9	42.8%	3	7.1%	0	0.0%	21	18.1%
運輸業・郵便業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	4.8%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%
卸売業・小売業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
金融・保険業	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
医療・福祉	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
公務員	1	6.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.9%
教員	2	13.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.7%
その他の産業	3	20.0%	1	5.3%	4	36.4%	0	0.0%	0	0.0%	1	12.5%	9	7.8%
未就職・その他	0	0.0%	1	5.3%	0	0.0%	2	9.5%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.6%
計	15	100.0%	19	100.0%	11	100.0%	21	100.0%	42	100.0%	8	100.0%	116	100.0%



**令和5年度
理工学部卒業・理工学研究科修了
祝賀会**

令和5年度学位記授与式と同日の令和6年3月22日、じつに5年ぶりに令和5年度理工学部卒業・理工学研究科修了祝賀会を開催いたしました。前回の平成30年度祝賀会においては、それまで最多の130名の参加となったものの、その翌年度から一転、4年続けての中止となりました。4年と言えまさに在学期間に一致し、祝賀会という行事の継承が途切れても不思議ではない期間です。そこで、以前のようなポスター掲示等で祝賀会開催の告知をし、当日の来場を待つという形式では参加者数を見込めないと判断し、コロナ禍の正の側面であるオンラインツールを活用した事前参加申し込み形式で開催したところ、91名の来場をいただき5年ぶりの開催ながら盛会となりました。ご参加いただいた皆様はもとより、開催にあたりご協力いただいた理工学研究科事務長をはじめ事務職員の皆様

に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。当日のスナップ写真を以下に掲載しますのでご覧ください。



学 生 表 彰

理工学部学生、理工学研究科大学院生は、日々研究活動に努力しています。特に、学会等からの表彰を受けた学生は以下のとおりです（令和6年2月以降）。今後とも学生の活躍にご期待ください。

- 理工学研究科博士前期課程（電子情報工学コース）
土山啓汰（2年）
情報処理学会第86回全国大会 学生奨励賞
- 理工学部（電子情報工学科）
草刈颯太（4年）
情報処理学会東北支部 学生奨励賞
- 理工学部（電子情報工学科）
三ツ橋多紡（4年）
令和5年度電気学会東北支部 優秀学生賞
- 理工学研究科博士前期課程（電子情報工学コース）
佐藤快（2年）
令和5年度電子情報通信学会東北支部 優秀学生表彰
- 理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
工藤健斗（1年）
第24回日本伝熱学会東北支部 学生発表会 優秀プレゼンテーション賞
- 理工学研究科博士後期課程
村上辰成（1年）
2024 International Symposium on Energy, Environmental and Material Science, Outstanding Oral Presentation Award
- 理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
高橋大佑（2年）
軽金属学会 第146回春季大会 優秀ポスター発表賞
- 理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
坂東航（2年）
軽金属学会 第146回春季大会 優秀ポスター発表賞
- 理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
菅原聖弥（1年）
計測自動制御学会東北支部 優秀発表奨励賞
- 理工学研究科博士後期課程
村上辰成（1年）
錯体化学若手の会近畿支部第66回勉強会 優秀ポスター賞
- 理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
荒田純寿（1年）
日本混相流学会混相流シンポジウム2024 ベストプレゼンテーションアワード
- 理工学研究科博士前期課程（物質創成化学コース）
小成颯太（1年）
日本化学会東北支部 令和6年度化学系学協会東北大会 優秀ポスター賞
- 理工学部（物質創成化学科）
福岡陸（4年）
日本化学会東北支部 令和6年度化学系学協会東北大会 優秀ポスター賞
- 理工学研究科博士後期課程
神谷浩（2年）
2024 IEEE 13th Global Conference on Consumer Electronics, Excellent Student Paper Awards, Outstanding Prize
- 理工学研究科博士前期課程（電子情報工学コース）
斎藤遥大（1年）
第206回システムとLSIの設計技術研究発表会 WIP 最優秀賞
- 理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
湯町柊太（1年）
第62回日本人工臓器学会大会 研究ポスターセッション 優秀賞
- 理工学研究科博士前期課程（地球環境防災コース）
金指由維（2年）
2024年度日本質量分析学会同位体比部会 優秀口頭発表賞
- 理工学研究科博士前期課程（地球環境防災コース）
吉田颯（1年）
2024年度日本質量分析学会同位体比部会 優秀ポスター発表賞
- 理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
浜谷昌大（2年）
精密工学会東北支部 JSPE Tohoku Student Excellence Awards
- 理工学研究科博士後期課程
神谷浩（2年）
2024 IEEE 13th Global Conference on Consumer Electronics, Oral presentation award
- 理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
涌井悠（2年）
日本機械学会 若手優秀講演フェロー賞
- 理工学研究科博士前期課程（物質創成化学コース）
古屋洗翔（1年）
2024年度材料技術研究協会討論会 ゴールドポスター賞
- 理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
中谷芹（2年）
第23回日本金属学会東北支部研究発表大会 最優秀ポスター賞
- 理工学研究科博士後期課程
今津毅士（2年）
International Symposium on Superconductivity 2024, Best Presentation Award
- 理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
鈴木那知（1年）
第58回日本生体医工学会東北支部 Young Investigator Award
- 理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
佐藤樹（1年）
日本機械学会第35回バイオフロンティア講演会 バイオフロンティア若手優秀講演表彰
- 理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
加藤英人（2年）
第33回微粒化シンポジウム 第24回写真コンテスト 最優秀賞
- 理工学研究科博士前期課程（機械科学コース）
三上京介（1年）
第33回微粒化シンポジウム 第24回写真コンテスト 最優秀賞

令和5(2023)年度 弘前大学理工学部同樹会決算書

令和6年3月31日

◆一般会計

収 入	支 出	繰 越
3,639,725	1,149,027	2,490,698

◎収入の部

(円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
繰 越 金	2,097,220	2,097,220	0	令和4年度より
会 費	1,550,000	1,500,000	△ 50,000	正会員 150人 (学部 (新入生) 102人 1,020,000円) (" (在学生) 37人 370,000円) (院生 11人 110,000円)
卒業・修了祝賀会 当日会費納入分	75,000	42,500	△ 32,500	教員等 17人 42,500円
雑 収 入	100	5	△ 95	預金利息
計	3,722,320	3,639,725	△ 82,595	

◎支出の部

(円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
弘前大学同窓会費	252,000	252,000	0	令和5年度負担金
印 刷 費	210,000	194,040	△ 15,960	会報第24号 1,300部 (178,750円) 払込取扱票印字印刷代 (15,290円)
卒業・修了祝賀会費	351,000	465,800	114,800	卒業・修了祝賀会経費 (423,300円) 卒業・修了祝賀会当日会費 (42,500円)
通 信・運 搬 費	50,000	39,544	△ 10,456	加入案内送料 (研究科新入生) (6,300円) 未加入者へ加入案内送料 (学部4年) (32,964円) 会報送料他 (280円)
会 議 費	10,000	756	△ 9,244	お茶代
事 務 費	120,000	120,000	0	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消 耗 品 費	20,000	20,037	37	ラベル用紙、封筒他
郵便振替払込料	37,000	34,250	△ 2,750	会費払込手数料 150人、郵送通知料金 67通
予 備 費	2,672,320	22,600	△ 2,649,720	弘前大学同窓会名誉顧問故吉田豊氏葬儀花輪代
計	3,722,320	1,149,027	△ 2,573,293	

◆特別会計

収 入	支 出	繰 越
10,001,948	0	10,001,948

◎収入の部

(円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
繰 越 金	10,001,865	10,001,865	0	令和4年度より
雑 収 入	200	83	△ 117	預金利息
計	10,002,065	10,001,948	△ 117	

◎支出の部

(円)

項 目	予 算 額	決 算 額	差 額	摘 要
特 別 事 業 他	0	0	0	
予 備 費	10,002,065	0	△ 10,002,065	
計	10,002,065	0	△ 10,002,065	

令和6(2024)年度 弘前大学理工学部同樹会予算書

令和6年4月1日

◆一般会計

◎収入の部

(円)

項 目	予 算 額	前年度予算額	増 減	摘 要
繰 越 金	2,490,698	2,097,220	393,478	令和5年度より
会 費	1,500,000	1,550,000	△ 50,000	正会員 150人×@10,000円 (学部 (新入生) 105人) (" (在学生) 35人) (院生 10人)
卒業・修了祝賀会 当日会費納入分	75,000	75,000	0	30人×@2,500円
雑 収 入	200	100	100	預金利息
計	4,065,898	3,722,320	343,578	

◎支出の部

(円)

項目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
弘前大学同窓会費	252,000	252,000	0	令和6年度負担金
印刷費	195,000	210,000	△15,000	会報25号 1,300部×@150円
卒業・修了祝賀会費	455,000	351,000	104,000	130人×@3,500
通信・運搬費	50,000	50,000	0	加入案内送料(研究科新入生) 100人×@120円 加入案内送料(学部学生4年) 250人×@140円 会報送料他(3,000円)
会議費	10,000	10,000	0	お茶代他
事務費	120,000	120,000	0	名簿整理及び会費払込案内ほか事務処理謝金
消耗品費	20,000	20,000	0	ラベル用紙、封筒他
郵便振替払込料	36,600	37,000	△400	会費払込手数料 150人×@200円 郵送通知料金 60通×@110円
予備費	2,927,298	2,672,320	254,978	
計	4,065,898	3,722,320	343,578	

◆特別会計

◎収入の部

(円)

項目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
繰越金	10,001,948	10,001,865	83	令和5年度より
雑収入	2,000	200	1,800	預金利息
計	10,003,948	10,002,065	1,883	

◎支出の部

(円)

項目	予算額	前年度予算額	増減	摘要
特別事業他	0	0	0	
予備費	10,003,948	10,002,065	1,883	
計	10,003,948	10,002,065	1,883	

編集後記

平成17年度より幹事を務めております一條です。

1～2面の鳴海様のご寄稿から、改めて人との出会いとそのネットワークの大切さを実感いたします。これを目にした会員各位との新たな出会いが生まれることを期待せずにはられません。また、学生時代に学んだことが受賞につながったというお話から、会員各位それぞれとは思いますが、学生時代に培った土台の上に形成される知識との出会いとそのネットワークが、ふと新たな気づきを芽吹かせ、人生を豊かにするのではないかと感じます。

2～3面の片岡先生ならびに丹波先生のご寄稿からは、多岐にわたる研究においてさまざまな学生らと取り組んだ様子が伺え、ここにも人との出会いの大切さが垣間見えます。文中に登場する会員各位も、これを目にし先生方との出会いや学生時代に培ったことの大切さに思いを馳せるのではないのでしょうか。

4～5面の梅田就職対策委員長のご寄稿には、売り手市場の様相の中で、選考時期の早期化が進んでいる状況の紹介がありました。また、本学のキャリア教育と、キャリアセンターならびに理工学部就職対策委員会による様々な取り組みを紹介いただきました。

コロナ禍に伴い長らく中止となっていた卒業・修了祝賀会をようやく開催でき、5面下にてお知らせいたしました。

学業に真摯に取り組む学生の活躍を6面にてご覧いただけます。また、表彰の有無にかかわらず知識や技術の研鑽に励み、将来の気付きの芽を育む多くの学生に対し、会員の皆様からのご支援をお寄せいただければ幸いです。

役員一覧

会 副 幹	会 長 事	千 葉 信 行
		山 上 佳 男
監 査	須 藤 勝 弘	(理工学部非常勤講師)
		一 條 健 司
名 誉 会 長	金 本 俊 幾	(理工学研究科准教授)
		荒 木 宏 孝
顧 問	岡 崎 雅 明	(弘前大学生生活協同組合職員)
		(総務部付技術専門職員・情報連携担当)
名 誉 会 長	佐 藤 裕 之	(理工学研究科教育研究支援室技術専門職員・副室長)
		加 藤 博 雄
顧 問	宮 永 崇 史	(元理工学研究科長、弘前大学名誉教授)
		吉 澤 篤
名 誉 会 長	稲 村 隆 夫	(元理工学研究科長、弘前大学名誉教授)
		(元理工学研究科長、弘前大学名誉教授)

(敬称略)

事務局

弘前大学大学院理工学研究科 一條 健 司

住所：〒036-8561 弘前市文京町三

電話：0172-39-3660

E-mail：keng@hirosaki-u.ac.jp

URL：https://www.st.hirosaki-u.ac.jp/~doju/

